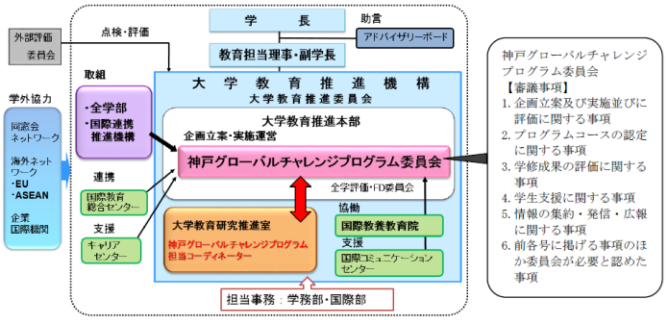
進捗状況の概要（１ページ以内）

【学内の実施体制】

本学の教学マネジメントを行う大学教育推進機構の下に、「神戸グローバルチャレンジプログラム委員会（委員長は本プログラム実施責任者である大学教育推進本部副本部長/学長補佐(グローバル教育担当))」を設置し、大学教育研究推進室及び国際教養教育院と協働し、本事業の企画・立案、運営及び実施について全学的な意思決定を行っている。

神戸グローバルチャレンジプログラム実施体制図



【中心となる取組】

①平成 29 年度は 14 コースを開講し、4 月に前年度参加学生の活動成果報告会を組込んだ全体説明会を「平成 29 年度神戸 GCP フェア」として実施し（計 460 人参加)、参加学生の募集を行った。その結果 11 コースを実施、計 98 名が本プログラムに参加した（うち 96 名が海外で学修活動を行った)。

②参加学生の自己評価の経年変化分析を行うルーブリック指標について、指標の各レベルの違いをより分かりやすくし、高い水準で回答する場合にはそのことを示す具体的な根拠を記述させることで、より客観的な指標となるよう改善を図った。さらに、本学の教務システムを用いて卒業時まで経年変化を測る仕組みを新たに構築した。

③海外プログラム参加学生を帰国後どうフォローするかについて、専門家を招聘して FD・SD を実施した。また、神戸グローバルチャレンジプログラム委員会が中心となり、本プログラムを担当する教職員が参加する「緊急時対応シミュレーション訓練」を企画・実施した。

④事業改善に向けた取組として、学生の意見や要望を聞き取るための意見交換会を実施した。

⑤平成 30 年度に実施するプログラムのコースについて、計 16 コースを認定した。

【取組の成果】

①参加後アンケートでは、高い満足度を得るとともに、長期留学等の国際的な活動への更なるチャレンジやより専門的なテーマへの学修意欲の向上等、本プログラムが全体を通じて設定している「学びの動機づけ」という目標に対して順調に成果が現れていることが確認できた。また、留学等さらなる海外での学修活動に参加した学生の割合についても、目標値を上回る成果が得られた。

②事前・事後学修時におけるルーブリック指標に基づく自己評価結果によると、本プログラムが独自に設定した 3 つの能力のいずれにおいても向上したことが確認でき、水準 3・水準 2 に達した学生の割合についても、目標値を大幅に上回る成果が得られた。

③FD・SD セミナーは、学内外の教職員による活発な意見交換も見られ、プログラム実施後の継続的な教育についても理解を深める有意義な機会となった。また、シミュレーション訓練は、本取組を参考にして平成 30 年度からは全学的な訓練が実施されることとなり、学内への波及効果があった。

④意見交換会（平成 28 年度参加学生 11 名、教職員 19 名出席）は、参加学生にとって学修内容を振返り、お互いに刺激し合う場となり、学生同士のネットワークを構築する良い機会となった。

⑤新たな学外学修先の調査・開拓を進めた結果、平成 30 年度は計 16 コースで最大 168 名を募集する予定である。

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

本プログラムは現在全学部 1・2 年生を対象としているが、今後も全学的に継続開講するために開講形態の見直し等も含めて検討する必要がある。他の海外プログラム担当部署等と連携し、今後の学内実施体制について、具体的に検討を行っていく予定である。

【学内外への波及効果】

本プログラムの実施部局・参加者は文系・理系学部と全学に及び、説明会参加者数や学生企画型コースへの参加者も増え、着実に広がってきている。また、これまでも HP 等通じて取組を発信してきているが、平成 30 年度にはシンポジウム開催を企画しており、さらに広く社会へ発信する予定である。

（テーマ：Ⅳ、大学等名：神戸大学）